

研修報告書:

所属会派	おかや未来研究室	委員氏名	吉 田 浩
研修の名称	マイカー乗り合い公共交通「ノッカルあさひまち」		
日程	令和3年11月16日（火）		
研修内容等	富山県朝日町（町役場 ノッカルあさひまちについて		

【概要】

朝日町の公共交通サービス「ノッカルあさひまち」は、ご近所さんの自家用車でのお出かけに、ついでに「乗っかる」ことができる、助け合いの気持ちをカタチにしたサービス。各地区と中心街を行き来する住民ドライバーの車に、移動したい乗客が「乗っかる」仕組みとなっており、ドライバーは助け合いの精神のもと、自分の予定に合わせて、近所の利用者を自分の車に乗せて、目的地まで送迎。利用者は、ドライバーの予定を見て事前に予約しドライバーの車で目的地まで移動。

【内容】

朝日町が運行主体として提供する公共交通サービス「ノッカルあさひまち」は、地域住民がドライバーとして参加し、町内地域住民が利用する「住民同士が支え合うMaaS（Mobility as a Service）」。

博報堂がサービス設計やシステム設計などを、スズキが軽自動車を提供し、国土交通省の「自家用有償旅客運送」制度に即して、朝日町の住民の移動課題の解決を目指し、三者共同で2020年8月から実証実験を開始。

実証実験は、当初、町の職員の運転で地域住民を無料で送迎するというかたちでスタートし、自家用車を保有する地域住民ドライバーの導入やサービスの有料化を行うなど改良を重ね、利用者数も順調に増加、延べ799名（2021年9月30日現在）に利用されている。

当実証実験を通じ、一定の需要が見込めることと、公共交通としてのサービス水準が確保できると判断し、朝日町の正式な公共交通サービスとして本格運用を開始。

本格運用開始にあたり博報堂DYグループが開発したMaaSシステムを新たに導入し、利用者の利便性向上と運用効率化の両立を図っている。新システムへの切り替えは2021年内を予定。

【講義の感想】

人口減少、高齢化の進んでいる地方において公共交通等の日々の移動に困っている人々のニーズに寄り添った新たなモビリティサービスの創出と考える。課題も多い中、企業との連携を図り実証実験を丁寧に行うなど地道に取り組まれている。道路運送法を遵守しながらコース設定、運行管理委託、そして住民の助け合い精神等、参考になる点も多い。